

令和7年中の火災・救急・救助年間概要

1 火災の発生状況

(1) 火災発生件数と火災による死者、負傷者の数

令和7年中の火災発生件数は129件で、火災による死者は4人、負傷者は16人でした。

	令和7年	令和6年	前年比較
火災の発生件数	129件	109件	20件増加
火災による死者の数	4人	3人	1人増加
火災による負傷者の数	16人	18人	2人減少

(2) 火災の種別

火災種別で見ると、建物火災が最も多く、全体の62.0%を占めています。

また、建物火災の中でも、住宅で発生した火災は49件で、前年の41件よりも8件増加しています。

火災種別	令和7年	令和6年	前年比較
建物火災	80件	72件	8件増加
車両火災	11件	11件	—
船舶火災	0件	0件	—
航空機火災	0件	0件	—
その他火災	38件	26件	12件増加

※その他火災とは、建物・車両・船舶・航空機火災以外の火災をいう

(3) 出火原因

出火原因で見ると、1位がたばこ、2位が電気機器・装置、3位が放火（疑い含む）の順となりました。

順位	令和7年	順位	令和6年
1位	たばこ 23件	1位	放火・放火の疑い 18件
2位	電気機器・装置 17件	1位	たばこ 18件
3位	放火（疑い含む） 15件	3位	コード等の配線類 13件

放火火災を防ぐ8つのポイント！



たばこ火災を防ぐ4つのポイント！



2 救急の出動状況

(1) 救急出動件数と搬送人員

令和7年中の救急出動件数は34,653件で、医療機関に搬送された人の数(搬送人員)は29,575人でした。

	令和7年	令和6年	前年比較
救急の出動件数	34,653件	35,543件	890件減少
搬送人員	29,575人	29,943人	368人減少

(2) 搬送人員の程度別

搬送人員を程度別でみると、軽症が最も多く、全体の51.4%を占めています。

程度別	搬送人員	全体に占める割合※
軽 症 (入院を必要としない程度)	15,203人	51.4%
中等症 (20日以内の入院が必要な程度)	12,465人	42.1%
重 症 (21日以上入院が必要な程度)	1,631人	5.5%
死 亡	276人	0.9%

(3) 搬送人員の年齢別

搬送人員を年齢別でみると、高齢者が最も多く、全体の64.5%を占めています。

年齢別	搬送人員	全体に占める割合※
新生児 (生後28日未満)	49人	0.2%
乳幼児 (生後28日以上、7歳未満)	1,371人	4.6%
少 年 (7歳以上、18歳未満)	829人	2.8%
成 人 (18歳以上、65歳未満)	8,446人	28.6%
高齢者 (65歳以上)	18,880人	63.8%

※全体に占める割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%となりません。

3 救助の出動状況

(1) 救助出動件数と救助人員

令和7年中の救助出動件数は792件で、救助された人の数（救助人員）は339人でした。

	令和7年	令和6年	前年比較
救助の出動件数	792件	836件	44件減少
救助人員	339人	387人	48人減少

(2) 事故種別

事故種別でみると、その他の事故が最も多く、全体の44.8%を占めています。

事故種別	令和7年	令和6年	前年比較
火災	28件	26件	2件増加
交通事故	38件	46件	8件減少
水難事故	15件	10件	5件増加
自然災害事故	0件	0件	—
機械による事故	4件	0件	4件増加
建物等による事故	349件	397件	48件減少
ガス・酸欠事故	3件	4件	1件減少
破裂事故	0件	0件	—
その他の事故	355件	353件	2件増加

(3) 室内閉じ込め救助の状況

近年は、ひとり暮らしの高齢者が施錠された自宅の中で倒れて動けなくなり、家族やヘルパー等の支援関係者が室内に入れないといった事案（室内閉じ込め救助）が増加しています。

また、室内閉じ込め救助には、家人が外出していたものや、室内で寝ていたものなど、結果的に、緊急性のなかった事案も少なくありません。

	令和7年	令和6年	前年比較
室内閉じ込め救助の発生件数	792件	597件	195件増加
救助出動全体に占める割合	68.1%	71.4%	3.3ポイント減少
緊急性のなかった事案	268件	268件	—